

伊豆半島東方沖の海底噴火に関する火山噴火予知連絡会の経過

6月30日の群発地震開始以降、気象庁は火山噴火予知連絡会の委員にファックスで資料を送付する等情報の収集・交換に努めた。7月11日の微動発生に際しては、直ちに関係委員と連絡をとり、7月12日には拡大幹事会を開催して情報交換や活動の判断を行い、会長コメントを発表した。さらに7月13日18時33分頃、伊豆半島東方沖で海底噴火が発生したため、拡大幹事会を開催し、会長コメントを発表した。

7月14日には緊急に全国の委員を集めて第51回連絡会を開催し、さらにデータの検討等を行い統一見解を発表した。

7月18日には今後の火山活動に対してより迅速な対応をとるため、新たに地震関係の学識経験者2名を加えた「伊豆半島東方沖の海底火山部会」（部会長 下鶴大輔東京大学名誉教授、設置及び運営要綱は会報45号参照）を発足させ、7月21日に第1回の部会を開催し、部会コメントを発表した。

これらの統一見解及び会長コメントは臨時火山情報として気象庁から発表された。

火山噴火予知連絡会の経過

7月12日	拡大幹事会	微動について。会長コメント発表。
13日	拡大幹事会	海底噴火について。会長コメント発表。
14日	第51回連絡会	海底噴火について。統一見解発表。
18日	海底火山部会発足	
21日	第1回海底火山部会	海底噴火について。部会コメント発表。